

(参考情報) 韓国農林畜産食品部公表情報

## 農林畜産食品部プレスリリース (2017年3月10日10時00分付け) 3月10日、口蹄疫全国移動制限解除

出典URL:

[http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155449203&section\\_id=b\\_sec\\_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board\\_kind=C&board\\_skin\\_id=C3&depth=1&division=B&group\\_id=3&menu\\_id=1125&reference=&parent\\_code=3&popup\\_yn=&tab\\_yn=N](http://www.maf.go.kr/list.jsp?&newsid=155449203&section_id=b_sec_1&pageNo=1&year=2017&listcnt=10&board_kind=C&board_skin_id=C3&depth=1&division=B&group_id=3&menu_id=1125&reference=&parent_code=3&popup_yn=&tab_yn=N)

(機械翻訳等に基づく仮訳)

### 《主な内容》

- ◆忠清北道報恩郡の口蹄疫の防疫区域解除検査で異常が確認されなかったことから、本日(3月10日)、報恩郡の移動制限が解除された
  - ・これにより、口蹄疫の発生をうけて講じられた全国の移動制限措置が3月10日(金)、全て解除された
    - \*移動制限解除: 京畿道漣川郡(3月3日)、全羅北道井邑市(3月6日)、忠清北道報恩郡(3月10日)
- ◆全国の移動制限が解除されても、危機警報段階を現行の「警戒」段階に維持しながら、全国単位で防疫措置を継続して推進する予定
  - \*特別防疫期間(～2017年5月)状況室運営、全国一斉清掃及び消毒キャンペーン(3月11日～3月20日)、脆弱農場の重点管理などの推進

農林畜産食品部(キム・ジェス長官、以下「農食品部」)は、忠清北道報恩郡の防疫区域の解除検査で異常が確認されなかったことから、本日(3月10日)、報恩郡の移動制限が解除されたことをうけ、今年2月5日から2月13日にかけて3地域(京畿道漣川郡、全羅北道井邑市、忠清北道報恩郡)で口蹄疫の発生をうけて講じられた全国の移動制限措置が3月10日に全て解除されたと明らかにした。

\*2017年の発生状況: 口蹄疫9件(京畿道漣川郡1、全羅北道井邑市1、忠清北道報恩郡7)

\*移動制限解除: 京畿道漣川郡(3月3日)、全羅北道井邑市(3月6日)、忠清北道報恩郡(3月10日)

#### 〈参考: 移動制限解除条件〉

- ▶発生農場の半径3km以内の防疫区域内の殺処分、消毒、緊急ワクチン接種が終了後、3週間発生がない場合は、精密検査を実施し、異常がなければ解除

ただし、危機警報は、現行の「警戒」段階を継続して維持する計画である。

農食品部は、発生初期からの全国単位での強力な特別防疫措置\*が口蹄疫の拡大防止に効果があったと評価し、今年は過去の口蹄疫の発生に比べて短期間で被害も少なく終息したと明らかにした。

\*△全国の家畜市場の閉鎖（2月9日～3月6日）、△全国の牛へのワクチン一斉接種（2月8日～2月14日）、△農場間の家畜の移動禁止（2月9日～2月26日）、△発生地域（京畿道、忠清北道、全羅北道）の偶蹄類の他の市・道への搬出禁止（2月9日～2月26日）など

区分	発生陽性件数	発生期間	殺処分家畜頭数
2010～2011年	3,748件	145日	348万頭
2014～2015年	188件	162日	17万頭
2016年	21件	44日	33千頭
2017年	9件	9日	14百頭

農食品部は、全国の移動制限が解除されても危機警報を「警戒」段階に維持して、全国単位での防疫措置を継続推進する予定だと明らかにした。

「口蹄疫・AI特別防疫期間（2016年10月～2017年5月）」の間、継続的に全国の市・道（市・郡）などで状況室を運営しながら口蹄疫防疫管理を継続し、全国の移動制限の後、3月11日から3月20日まで生産者団体主導で、全国の偶蹄類農場の一斉清掃及び消毒キャンペーンを推進する。

併せて、防疫脆弱農場（NSP抗体、抗体形成率低調、密集飼育団地など）の定期点検、ワクチン接種、消毒などを重点管理していく計画である。

農食品部は、発生地域の移動制限や消毒などにより苦労した畜産農場や発生地域の住民はもちろん、不便な状況におかれた国民に対しても、協力に感謝の意を示した。

口蹄疫の移動制限は解除されたが、農場単位での口蹄疫ワクチン接種、消毒、遮断防疫を怠った場合、いつでも再発する可能性があるとして説明しながら、

- ・畜産農場では、緊張を緩めず、畜舎内・外の消毒並びに出入り車両及び人などの遮断防疫を徹底し、口蹄疫の疑い畜を発見した時には速やかに家畜防疫機関に申告し、口蹄疫ワクチン接種を徹底する
- ・地方自治団体は、防疫脆弱地域（密集飼育団地など）を事前に把握して集中管理することにより、追加発生防止に最善を尽くす
- ・生産者団体は、畜産農場が口蹄疫ワクチン接種、消毒などの遮断防疫を実施し、疑い畜発見時には迅速に家畜防疫機関に申告するよう、広報するよう依頼した。

## 参考

これまでの口蹄疫の発生状況

区分	2000年	2002年	2010年
----	-------	-------	-------

			2010年1月（抱川）	2010年4月（江華）	2010年/2011年（安東）
<b>発生</b>	3月24日～4月15日（23日間） 15件（牛15）  ※3道6市・郡 京畿（坡州・華城・龍認）、忠南（洪城・保寧）、忠北（忠州）	5月2日～6月23日（53日間） ○16件（牛1、豚15）  ※2道4市・郡 京畿（安城・龍仁・平沢）、忠北（鎮川）	1月2日～1月29日（28日間） 6件（牛6）  ※1道2市郡 京畿（抱川、漣川）	4月8日～5月6日（29日間） 11件（牛7、豚4）  ※4市道4市郡 仁川（江華）、京畿（金浦）、忠北（忠州）、忠南（青陽）	2010年11月28日～2011年4月21日（145日間） 153件（牛97、豚55、山羊1）  ※11市道75市郡 釜山1、大邱1、仁川3、蔚山1、大田1、京畿19、江原13、忠北8、忠南10、慶北16、慶北2）
<b>血清型</b>	0型	0型	A型	0型	0型
<b>防疫措置</b>	殺処分182農場、2,216頭 *牛2,021頭、豚63頭、山羊・鹿132頭 予防接種（Ringワクチン）	殺処分162農場、160,155頭 *牛1,372頭、豚158,708頭、山羊・鹿75頭 予防接種未実施	殺処分55農場、5,956頭 牛2,905頭、豚2,953頭、山羊・鹿98頭 予防接種未実施	殺処分395農場、49,874頭 牛10,858頭、豚38,274頭、山羊・鹿742頭 予防接種未実施	殺処分6,241農場、3,479,962頭 牛150,864頭、豚3,318,298頭、山羊・鹿10,800頭 予防接種実施（全国ワクチン）
<b>国内終息</b>	予防接種中止後1年  ※清浄国回復：2001年8月31日	移動制限解除（8月14日）後  ※清浄国回復：2002年11月29日	移動制限解除（3月23日）後	移動制限解除（6月19日）後  ※清浄国回復：2010年9月27日	移動制限解除（6月25日）後  ※ワクチン接種清浄国：2014年5月29日
<b>財政所要額</b>	2,725億ウォン - 補償金71 - 買取2,428 - 消毒など202 - 生活・経営安定・導入資金など23.7	○1,058億ウォン - 補償金531 - 買取、消毒など	272億ウォン - 補償金93 - 買入、消毒など	1,040億ウォン - 補償金637 - 買入、消毒など	27,383億ウォン - 補償金18,337 - 買入、消毒など

区分	2014年	2014～2015年	2016年
<b>発生</b>	7月23日～8月6日（15日間） 3件（豚3）	2014年12月3日～2015年4月28日（147日間） 185件（豚180件、牛5件）	2016年1月11日～13日（全北、3日間）、2件 2016年2月17日～3月29日（忠南、41日間）、19件。

	※2道3市郡 慶北（義城、高靈）、慶南（陝川）	※7市道33市郡 仁川2、世宗2、京畿56、江原11、忠北36、忠南70、慶北8	※2市道6市郡 金堤、高敞 公州2、天安1、論山14、洪城2
<b>血清型</b>	0型	0型	0型
<b>防疫措置</b>	殺処分3農場、2,009頭 豚2,009頭 全国予防接種	殺処分196農場、172,798頭 豚172,721頭、牛70頭、鹿7頭 全国予防接種	殺処分25農場、33,073頭 ※予防的殺処分4農場 豚33,073頭 全国予防接種
<b>国内終息</b>	移動制限解除（9月4日）後 ※ワクチン接種中、終息宣言はしていない	移動制限解除（5月22日） ※ワクチン接種中、終息宣言はしていない	移動制限解除（4月27日） ※ワクチン接種中、終息宣言はしていない
<b>財政所要額</b>	約17億ウォン（推定） - 補償金5 - 消毒など12	約638億ウォン - 補償金454 - 生計・所得19 - 消毒など165	59億ウォン - 補償金59